

大津市立伊香立保育園

日時：2013年1月15日（火）13:30-17:00

2013年1月18日（金）9:00-16:00

場所：大津市伊香立下龍華町 566 番地

里山へ歩く道にも、たくさんの自然が残る伊香立地域。森に住むおサルをテーマにプログラムをつくりました。そして、当日はなんと大雪。たくさんの雪に埋もれそうになりながら、楽しむ子どもたち。そして、柔軟にプログラムを変更し、安全に配慮しながら、伊香立の自然を感じるプログラムを実施しました。

（対象：4歳児、5歳児 計25名）

1日目は講座、下見とプログラムづくり、2日目は作成したプログラムの実践とふりかえりです。講座の一部を紹介します。 講師 島川武治（しまっち）さん

まずは保育者自身が楽しもう！

「自然って、子どもにどう伝えたいのかわからない。草花や昆虫の名前を聞かれてもわからないし、危険も多そう・・・」

という印象をお持ちの保育者の方も多そうです。

しかし、難しいことは考えず、まずは楽しんでみましょう！ルーペで観察すると、ミクロの世界が、木に触れると温かさが、どんぐりや葉っぱ1枚でもいろんな遊びが広がります。



ルーペで観察すると「わー」「へー」な言葉がいっぱい



保育者がまずは楽しんで、自然で遊んでみましょう！



葉っぱとどんぐりと枝分かれた小枝で、ジャンケン、ポン！



森でモリモリあそぼう！

おサルから来た手紙にびっくりの子どもたち。お手紙にしたがって、木に登ったり、いろんな葉っぱの感触を楽しみました。おサルのために、集めた葉っぱや松ぼっくりを置いておくと。。。いつの間にか、おサルがやって来たのか、葉っぱがなくなっていました。身近な自然が人や動物にとっても大事な自然であることに気づきます。



森の中に、おサルさんからの手紙がありました。なんと子どもたちへのメッセージが。

雪の下から葉っぱを見つけたよ。



おサルさんが来たんや！



みんな見て見て！葉っぱとまつぼっくりが！

おサルがいるのかな？おサルが来たんやで！来て食べていったんやで！

木の妖精と遊ぼう

みんなの前に現れた妖精さん。魔法が使える杖でみんなと遊んでくれました。一緒に木に変身してみたり、同じ木は見つかるかなと写真を持ってきてくれたり。最後は見つかった木を抱きしめて、木にニックネームをつけてあげました。一本一本の木が大好きになりました。



妖精さんの登場。杖で魔法が使えるよ。



妖精さんの魔法で、木になってみよう。まずは1人から、そしてグループでなってみよう！

妖精さんの持っていた写真と同じ木はどれかな。。



見つけた木に名前をつけよう！恐竜の木、ザラザラの木、お気に入りがありました。

プログラムを終えてのふりかえりから

- ・雪の中を掻き分けて落ち葉を探す楽しさがあった。大切そうに落ち葉を持っていた。
- ・おサルが森にいると聞いた時の、子どもたちの表情やつぶやきが、ワクワク感を表現していた。（前日にお手紙が届いたことで、1つの手紙の世界に入って想像し始め、おサルに会いたいという気持ちが芽生えた。）
- ・「木」に着目してプログラムを作った。普段できていないことであったので、勉強になった。
- ・子どもは雪があると本能的に、遊ぶということを改めてみた。
- ・雪という寒さへの対応。冷たさや厳しさもあることを伝える必要もある。

関西広域連合職員が「幼児自然体験型環境学習」を視察！

当日は大雪でしたが、滋賀県外の京都、大阪、和歌山、兵庫、徳島などから視察がありました。

【視察をしての感想】

- ・子どもの元気さや保育者のエネルギーからパワーをもらった。名前をつけることで親しみが沸く。輪になって一体感が出た。自県ではネイチャーゲームを出前事業でやっていたが、より現場で展開していきたい。

子どもも大人も一緒になって、雪の中1つの輪っかになりました。

